

ながくてCOOL CHOICE 連続セミナー 第3回報告

日時 平成29年10月7日（土）午前11時から午前12時まで
場所 北小校多目的室
講師 中部大学中部高等学術研究所研究員：原 理史（はら まさし）氏
参加者 31人

第3回目のセミナーは、北小校区共生ステーションおためし会で1時間お時間をいただき、実施しました。

セミナー開始

近年気温が上昇しています。過去1400年の間で、1983年から2012年の間は最も高温の30年でした。150年前と比べると0.78℃上昇しています。

南方にしかいなかったヒトスジシマカの生息域が北上して、数年前に東京でデング熱の患者が出て、騒ぎになったこと覚えている人もいると思います。最近、冬に屋外で氷が張らなくなってきたことを実感しています。ニホンジカが増えていることも温暖化の現れです。春に雪が早く溶けると子鹿の生存率が高くなります。厳しい寒さで雪が長く残ると、子鹿は多く生き残れません。最近豪雨も多くなっています。線状降水帯の影響で同じ場所で雨が降り続いて、大きな災害を引き起こしています。

通常太陽からの熱は、地球に当たるとまた宇宙へ放出されますが、CO₂が増えると大気中に熱がこもってしまいます。マキを燃やしても、出たCO₂はまた植物に戻っていきますが、石油、石炭などの化石燃料を燃やすと大量に出たCO₂は、大気中に残ります。CO₂の累積排出量と気温の上昇は、ほぼ比例しています。地球温暖化で予想される将来のリスクは、



海面上昇、熱中症、食糧不足などが挙げられます。CO₂を出すのを減らす「緩和」と自然に合わせる環境「適応」が必要となります。

パリ協定では、気温を産業革命以前より2℃以内の上昇にすることを目的としています。2℃上がると1000年後にはグリーンランドの氷床が消滅して海面が7m上昇します。気候変動が進行すると、元には戻らなくなってしまいます（テッピングエレメント）。2100年に2℃以内の上昇にするには、大気中のCO₂が約450ppmであること、2010年に比べて40～70%の温室効果ガス排出量とすることが必要となります。日本は京都議定書に基づき、2030年には2013年に比べてCO₂の排出を26%削減する約束をしています。地球温暖化対策計画では、産業、業務、家庭からのCO₂削減を挙げています。市民の考えは、物から心の豊かさへ変わってきているようにみえます。

家庭からの1人あたりのCO₂は、世界で5番目に多く、3.6%の排出量があります。2015年の産業部門のCO₂は、1990年度と比べて21%減っていますが、家庭からの排出量は、30.7%増加しています。1軒あたりのCO₂の排出量は、年間5tCO₂となっています。

まず家庭でできることから始めてみましょう。風呂は続けて入る、追い炊きをしないようにする。保温便座のふたは閉じておく。家電の主電源をこまめに切る。家電の買い換えは、エコのものにする。自動車の運転のときは、余分なガソリンを消費しないために、事前にルート調べて道を間違えないようにすることや、エコカーに換えることでガソリンの消費を減らすことができます。思い切って家自体をエコな家に換えることなどです。

COOL CHOICEの推奨

国は、エコカー、エコ住宅、エコ家電、クールビズ等の低炭素なアクションを実践するためのライフスタイルの選択を広く呼びかけています。



シェアリングエコノミーの考え方

場所、人、物、乗り物等をインターネットを介して、個人でシェアすることで、過剰消費所有にならない様にしましょう。シェアすることで、資源の有効活用ができます。

食べ物は石油からできている

ベジタリアンは肉好きの人の1/2のCO₂の排出量がある。1kgの温室効果ガスをもたらす食品の平均量は、タマネギでは50.8kg、牛肉では38gとなっている。食べ物を無駄なく利用することもエコとなります。

カードゲーム

生活全般の個々のもののCO₂排出量をカードにしたエコレで、トランプの神経衰弱の要領で3チームに分かれ、取った組数及びカードごとに記載されているCO₂の削減点数の量で勝者を決めました。原先生がどのようなものが多いのCO₂を出しているか、ゲームの意味を説明されました

最後にトライアルアンケートに答えてもらうようお願いしました。

